

# 目次

## 概要

[ASA バージョン 9.0\(1\) 以降での show xlate の出力の「X」接続フラグについて](#)

## 関連情報

## 概要

このドキュメントでは、ASA バージョン 9.0(1) 以降の show xlate コマンドの出力に表示される「X」接続フラグについて説明します。

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## Q. ASA バージョン 9.0(1) 以降での show xlate の出力の「X」接続フラグについて

A. 「X」フラグは、接続がピアセッションの PAT xlate を使用することを示します。

次に例を示します。

```
ASA# show conn address 10.107.84.21055 in use, 108 most usedTCP outside 10.107.84.210:443 dmz
10.36.103.86:53613, idle 0:00:30, bytes 18155, flags UxIO TCP outside 10.107.84.210:80 dmz
10.36.103.86:52723, idle 0:00:57, bytes 2932, flags UxIO ASA#
```

ASA バージョン 9.0(1) 以降では、TCP または UDP ベースの DNS 接続が閉じると、接続が使用した PAT xlate が xlate の表からデフォルトでただちに削除されます。この動作は、接続がダウンした後、追加で 30 秒タイムアウトする間、ダイナミック xlate が表にとどまるという動作をする、9.0(1) より前のソフトウェアバージョンとは異なります。

この動作をイネーブルにするデフォルトのコマンドは、show run all xlate コマンドを指定した設定で確認できます：

```
ASA# show run all xlatexlate per-session permit tcp any4 any4xlate per-session permit tcp any4
any6xlate per-session permit tcp any6 any4xlate per-session permit tcp any6 any6xlate per-
session permit udp any4 any4 eq domainxlate per-session permit udp any4 any6 eq domainxlate per-
session permit udp any6 any4 eq domainxlate per-session permit udp any6 any6 eq domainASA#
```

ASA がバージョン 9.0(1) より前のソフトウェアバージョンから 9.0(1) 以降にアップグレードされると、レガシーが 30 秒タイムアウトする動作は、特定の xlate per-session deny ルールを設定に追加することによって維持されます。

アップグレードされずにバージョン 9.0(1) 以降を実行する ASA には、デフォルト規則が適用されます (上記の出力例を参照)。バージョン 9.0(1) 以降にアップグレードされた ASA は、次の出力例に示すように、デフォルト以外の明示 xlate ルールが適用されます：

```
ASA# show run xlatexlate per-session deny tcp any4 any4xlate per-session deny tcp any4 any6xlate
per-session deny tcp any6 any4xlate per-session deny tcp any6 any6xlate per-session deny udp
any4 any4 eq domainxlate per-session deny udp any4 any6 eq domainxlate per-session deny udp any6
any4 eq domainxlate per-session deny udp any6 any6 eq domain
```

この出力例で示す xlate コマンドは、バージョン 9.0(1) へのアップグレード中に追加され、セッションごとの xlates をディセーブルにして以前のバージョンの動作を維持します。

## 関連情報

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)